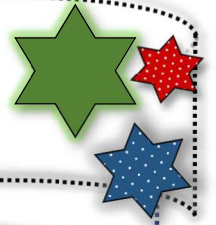


ぶっく★まーく

編集スタッフのおすすめ



このコーナーでは、情報・図書コーナーの中から、本紙スタッフがピックアップした本を紹介しています。

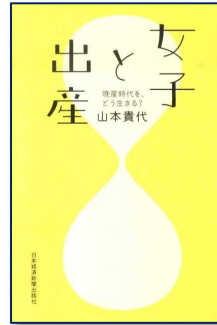
この他の本も、ぜひご利用ください。※書籍下の番号はセンターでの検索番号です。



[200-1]

**オトナ婚です、わたしたち
十人十色のつがい方**
2013年 太郎次郎エディタス
大塚 玲子 (著)

別居婚、事実婚、同性婚、年の差婚等、いろいろなつがい方の人にインタビュー。結婚とはこういうものという思い込みがあったことに、気が付いた。(ぽっと)



[300-10]

**女子と出産
晩産時代を、どう生きる?**
2010年 日本経済新聞出版
山本 貴代 (著)

平均寿命が延びてもすべてのタイムリミットが伸びたわけではない。いつかは出産したいなら、他人ゴトではなく自分ゴトに。産めるということは奇跡的なこと。(ぽっと)



[1100-2]

マダム貞奴 世界に舞った芸者
2007年 集英社
レズレー・ダウナー (著)、
木村 英明 (訳)

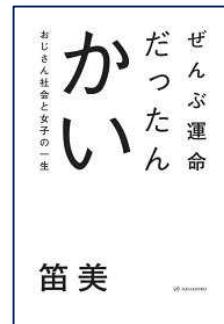
海外渡航が困難であった時代に海を渡り、欧米諸国の舞台上で舞い続けた貞奴。優雅な舞姿は世界の人々を魅了した。英国人作家が日本初の女優の、激動の生涯を紹介。(みっと)



[1200-2]

キャラメル色のわたし
2020年 鈴木出版
シャロン・M・ドレイパー (著)、
横山 和江 (訳)

黒人のパパと白人のママが離婚。キャラメル色のイザベラは毎週ふたりの家を行ったり来たり。10代の目でみた離婚家庭のリアル。今を爽やかに生きるイザベラに拍手!(ルナ)



[1200-3]

**ぜんぶ運命だっただんかい
おじさん社会と女子の一生**
2021年 亜紀書房
笛美 (著)

女性は頑張っても男性と同等に評価されず、女性らしさを求められる。生きづらさは自分の能力ではなく社会のせいだった! フェミニズムを知って見えてきたものとは?(こなつ)



[2000]

ドラゴンのお医者さん
ジョーン・プロクター は虫類を愛した女性
2019年 岩崎書店
パトリア・バルデス(著)、フェリタ・サラ(絵)、
服部 理佳(訳)

人形遊びよりも「は虫類観察」が好きだった子どものころのジョーン。いつもヘビやトカゲといっしょだった。成長した彼女は「ロンドン動物園は虫類館」初の女性学芸員に。(みっと)

新着図書情報(一部抜粋)

図書名	検索番号	作者	出版社
女と男、このしんどさは誰のせい?	100-5	描き子 (著)	永岡書店
3人で親になってみた ママとパパ、ときどきゴンちゃん	200-5	杉山 文野 (著)	毎日新聞出版
自慢話でも武勇伝でもない「一般男性」の話から見えた生きづらさと男らしさのこと	500-1	清田 隆之(桃山商事) (著)	扶桑社
「障害」ある人の「きょうだい」としての私	1000-1	藤木 和子 (著)	岩波書店
わたしのかぞくみんなのかぞく	2000	サラ・オレアリー (著)、チン・レン (絵)、他	あかね書房

編集後記

プロの演奏家にチェロにまつわる色々な話を聞き、一曲演奏してもらった機会があった。本物はやっぱりすごい、音が心に響いた気がして涙が出そうになった。私も「もっと心に届く文章が書けるようになりたい」と思った。「ぶっく★まーく」が読者の心に届きますように。(ルナ)